別海町郷土資料館だより

No.301　2024年8月号

夏休み　奥行臼トロッコサンデーのお知らせ！

　夏休み期間中の毎週日曜日、町指定文化財「奥行臼駅」の線路を利用したトロッコ乗車体験の提供を行います。足こぎトロッコの他、エンジン付トロッコも運航予定です。料金は無料ですので、お気軽にご参加ください。

●日　　時　７月２８日（日）～８月１８日（日）
　　の毎週日曜日（計４回）
　　午前１０時～午後２時
●主 会 場　旧奥行臼駅（奥行１６番地２９）
●内　　容　①奥行臼駅トロッコ乗車体験　②乗馬体験（旧奥行臼駅逓所横広場）
●そ の 他　①旧奥行臼駅前は駐車禁止です。お車は国道沿いの奥行駐車場または、奥行会館駐車場に止めてください。
　　②乗馬体験は馬の体調により時間を短縮する場合もあります。

サマースクール
～大昔のべつかい古代人に挑戦しよう・勾玉づくり～を実施しました。

　７月３１日（水）１７名で実施しました。
　はじめに、別海町の大昔のお話しをしました。縄文時代の遺跡、土器、石器、人骨など遠い昔から生活の営みがあったことがわかったかと思います。
「勾玉」は滑石を使いました。なれない作業で悪戦苦闘しましたが、思い思いの勾玉が出来上がりました。

特別展「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」、白老町・ウポポイ(民族共生象徴空間)での展示を実施しました。

ウポポイは、国内はもとより、海外からも多くの入場者があり、アイヌ文化を学ぶ、もしくは、観光で訪れるなど子どもから大人まで様々な方がいます。

そういった中、アイヌ文化に理解のあった松浦武四郎と加賀伝蔵をメインとした展示や講座、松阪市の物産販売などを実施し、普及啓発を行い多くの方のご来場がありました。

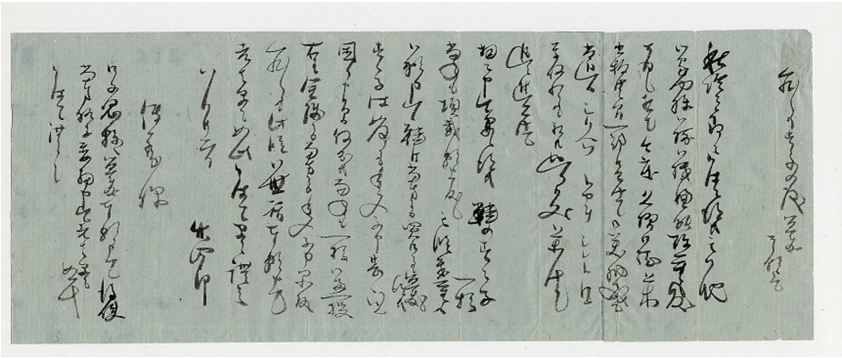
「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その 11

松浦武四郎が加賀伝蔵に託したメナシアイヌへのおもい

「加賀家文書」には、武四郎の出版物や伝蔵に宛てた書簡が 6 通あります。書簡は、1858 年(安政 5)シレトコの旅の途中からのもの、江戸で執筆中に送ったものがあります。江戸から送られた書簡には、蝦夷地のことや旅に同行したアイヌのことを心配し、伝蔵にその保護をお願いしていることや、江戸や京都の幕末の動乱の様子などが、書かれています。さらに江戸では手に入らない鮭の筋子を伝蔵にお願いしています。伝蔵が鮭の筋子を送ると、武四郎は自分の出版物を書簡に添えて送りました。

武四郎の「午十五番手控」(野帳)には、場所三役(支配人・通辞・帳役)のアイヌに対する五段階評価ともいうべき一覧があります。その中で伝蔵は数少ない「上」の部に位置付けられ、武四郎が江戸に帰ってから交流のあった場所三役は、唯一伝蔵一人でした。

二人の蝦夷地やアイヌに対する思いが信頼関係を築き上げたことは、間違いないと思われます。



別海町郷土資料館だより No.３０１

発行日　令和６年８月１日
発行所　別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地
電話　0153－75-0802（FAX 兼）

編集後記

ウポポイでの展示会は、国内外からから多くの方が訪れ、加賀伝蔵を沢山の人に知っていただくことが出来ました。

それにしても今年の夏は、蒸し暑い日が続きます。カラッとした気持ちの良い北海道の夏は、どこに行ってしまったのでしょうか。